

オンライン授業実施のヒント

今回のニューズレターでは、オンラインで授業を実施するときに役立つような情報を提供します。

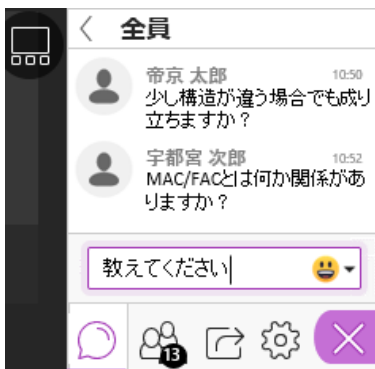
■学生に手書きの答案を提出させる Tips

オンライン授業では、これまで紙を使って学生に書かせていた答案を、LMSの課題から提出させる機会も多いと思います。ただ学生がPCやソフトウェアを持っていなかったり、それらを使いこなせないために、LMSで提出する答案をうまく作成できないことがあるかもしれません。

スマートフォンのカメラとスキャナアプリを利用すると、紙に書いた答案を撮影してPDFの答案を作成することができます。カメラで答案を撮影すると歪んだり傾いて文字が読み取りづらくなる可能性があります。この方法は歪みや傾きを補正してくれる上に、写真よりもファイルサイズが小さくなりますので、お勧めです。[LMSサポートサイトのマニュアル \(http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/tools/lms/scanapp.html\)](http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/tools/lms/scanapp.html)の解説ページを、学生にご紹介ください。

■同期型授業でチャットを使って学生の質問をスムーズに受け付ける

同期型のオンライン授業では、ビデオ会議システムを利用します。LMSでは、コースツールにある「Blackboard Collaborate Ultra」で同期型授業を実施できます。こういったシステムを使う授業では一般に、学生にはマイクをミュートにして参加させ、質問するときなど必要な場合にのみマイクの使用を許可します。ただ、学生が質問する意思表示をし、教員が許可してから、マイクをオンにして発言・・・という手続きを学生ひとりひとりにさせると、時間がかかってスムーズではありません。また、学生も気軽には質問ができません。



ビデオ会議システムは、チャットで教員や出席している全員に向けて、テキストのメッセージを送る機能を持ちます。学生からの質問はチャットで受け付けて、教員はマイクで回答するという方法であれば、多くの質問にもスムーズに答えることができます。また、学生も質問しやすいかもしれません。

■LMSのURLリンクで学外の資料を活用する

LMSでは、「コンテンツ」メニューにある「URLリンク」でウェブ上の資料へのリンクを設置することができます。URLリンクを利用すると、学外のウェブページだけでなく、講義ビデオを視聴させることもできます。YouTubeはGmailのアカウントで利用できるため、大学のメールアカウントでログインしてビデオをアップロードすることができます*。ビデオを「限定公開」にすれば、ウェブからの検索が不可能になり、ビデオのURLを知っている者しかアクセスできません。ビデオをYouTubeにアップロードして限定公開にし、そのURLをLMSのコースに掲載すれば、授業の受講生にのみビデオを視聴させる形になります。

*2020年5月現在、可能であること確認しています。

オンライン授業に関する 各キャンパスの問い合わせ窓口

オンライン授業についてお困りのときは、まず下記の窓口にお問い合わせ下さい。

	教務 (コースがない等)	ID (パスワード不明等)	LMSの 技術的問題
板橋		事務部教務課	
八王子	教務グループ	情報処理センター	サポートデスク 情報処理センター
宇都宮	教務チーム	教務チーム	ラーニングテクノロジー開発室
福岡		事務部総務課	

オンライン授業についてよくあるご質問

■学生が授業資料を二次利用できないように、ダウンロード禁止にできないか？

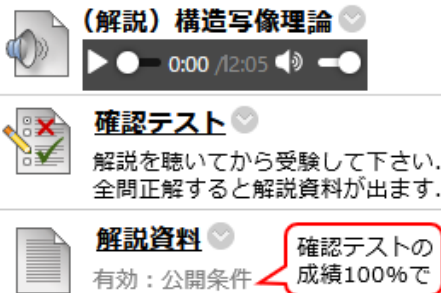
技術的には不可能です。二次利用となると、究極的には「モニタ画面をスマートフォンで撮影する」ことを技術的に妨げる方法はありません。

この問題については、学生に対して「授業の資料やビデオをSNSに掲載して第三者に閲覧させるなど、自身が教育を受ける上で必要な範囲を超えた利用をしないこと、このような行為は著作権・プライバシーの侵害等に対する損害を請求されるなど、重大な問題に発展する可能性があること」を周知いただくよう、LT開発室から各キャンパスに依頼しています。各授業でも、取り扱いに注意が必要な資料を提示する際は、資料の説明にその旨を記載するとよいでしょう。

■講義ビデオを見た（講義音声聴いた）学生にだけ資料を提示することは可能か？

LMSにそのような機能はありませんが、よい方法があります。ビデオを見たら（音声を聴いたら）正答できる、簡単な問題ひとつか少数で構成されるテストを設置します。このテストで満点を取ったら表示する「公開条件」を、提示したい資料に設定します。「確認テストがある、満点を取らないと進めない」という状況が設定されますので、講義をきちんと聴く学生が増える効果も期待できます。

公開条件については、LMSハン



ドブック（教員用）の39ページをご参照ください。ハンドブックは、LMSのホーム画面右の「マニュアル」からも入手できます。

このようなテストでは、受験回数を制限すると不合格で先に進めない学生がでてしまいますので、複数回または回数無制限で受験可能にすべきです。また、偶然正答することを防ぐために、単語などを入力させる問題にするか、多肢選択問題なら選択肢を増やして2問以上を作成するとよいでしょう。もちろん、テスト受験後に正解は提示しません。正解は、講義を聴けば分かりますので。

■LMSのテストで単位修得認定試験を実施できるか、テスト受験を監視できるか？

LMSのテスト受験を監視する方法はありませんので、教場試験と同等のことはできません。ただ、単位修得認定の試験をLMSで実施できるか否かは、考え方と問題の設計次第だと思われれます。

LMSのテストでは、受験可能な日時、解答の制限時間、強制完了（解答中にテスト画面を閉じたり他の画面を開くと、そこでテスト完了となって答案が提出される）を設定することはできますが、PCでテストを開き、スマートフォンで調べながら受験することは技術的には妨げられません。そのため、LMSで単位修得認定試験を実施するのであれば、「何でも持ち込み可の試験」となってしまふことに注意する必要があります。このような限界も踏まえると、ひとつの試験で評価するのではなく、授業期間全体の中で実施される小テストやレポートなど、複数の材料から認定評価することを検討すべきだと考えます。

LMS Tips

- ◆ スマートフォンで紙の答案をPDFにしてLMSで提出する(学生用Tips)
- ◆ Wordの変更履歴を利用して課題の答案作成過程を記録させる
- ◆ LMSで配信したビデオの視聴履歴を確認する(宇都宮)
- ◆ 教材やテストを公開する日時や条件を設定する

※上記のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。（<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>）

編集後記

この5月、新たなスタッフとして技術職員の梶原裕加さんが加わりました。学内のLMS活用が進む中、頼もしい限りです。

LT開発室に限らず、オンライン授業の実施によって発生した臨時業務に事務職員のみなさんが対応する姿を見て、我々教員は日々いかにサポートされているかに気付かされました。こういう時節だからこそ、働く人の間で、お互いの貢献への敬意を忘れないようにしたいですね。（小島）

